

2018
おもろ
チャレンジ

マオリ人から学ぶ！異文化交流のカギ

経済学部 2年

佐藤 堯信

ニュージーランド

2018年8月26日-

2018年9月10日



渡航概要と内容

今回の私は、異文化交流を円滑に行うための要因は何であるかということ調べるため、ニュージーランドで調査を行った。調査地をニュージーランドに定めた理由としては、ニュージーランドの先住民族であるマオリ人とその他の人々は互いに尊重しあって暮らしているからである。その証拠の一つとしてニュージーランドで人気のスポーツであるラグビーにおいて、ニュージーランド代表は試合前マオリ人の踊りであるハカを踊る。

そこで私はまずマオリ人の歴史を学び、マオリ人の特徴を把握し、そしてマオリ人以外の人びとにもマオリ人に対する意識調査を行った。最初に北島に比べてマオリの血を引く人の少ない南島を、そして次にマオリ人の歴史やマオリ人の昔の生活を学ぶためにマオリ人が住んでいる場所に行って実際にハカやマオリ人の生活を見てきた。



最後にマオリ人を引く人々がよく住む北島の最大都市オークランドにおいて人々の意識調査を行った。

調査を進めていくうえで一つ感じたのは、ニュージーランドに住む人々は多くの日本人と違い、時間をゆっくり過ごしたいと思っている人が多いのではということだ。人々に質問するときも、人々ははっきり自分の意見を述べてくれるとともに、みんなとても表情が穏やかであった。そして私が日本人ということを書くと、多くの人が「日本人は忙しすぎる」というニュアンスのことを言っていた。ただ、その日本に慣れてしまっていた私にとっては彼らのペースで話を進めることに最初は苦労した。

また、私の場合渡航予定日前日に体調を崩してしまい、数日遅らせて調査を進めたが2週間弱経ってからまた体調を崩し、大学と相談した末に結局二週間の調査となってしまった。現地で体調を崩した時は日本で処方された時の薬に加えて、市販の薬も持って行っていたのでそれで対処した。

渡航を通じて感じたこと・学んだこと

私が今回の調査で学んだことは異文化交流を円滑に行うには、双方向の人々の意識とまたその国もつ雰囲気に関係しているということだ。ニュージーランドに住む人びとは前述したとおり基本的に穏やかである。そして穏やかさは寛容さや優しさに繋がっていると考えられる。その為、マオリという文化を自分たちの一部としっかり受け入れていた。また、ニュージーランドにはいろんな場所でマオリの偶像が見られた。それによって人びとの意識の中にマオリというものは組み込まれていったように考えられる。これもまたしっかりとマオリをうけいれようとする意識なのではないだろうか。また、マオリ族もマオリ族で観光客向けのイベントやツアーを行うなどして、異文化の双方がしっかりと受け入れあおうとしているように思えた。マオリの血を引く人が多い北島も少ない南島もともにそこに住んでいる人びとの交流に差異は見られないように感じられたのもそのおかげではなかろうか。

異文化交流というのはとても難しいことである。一方だけが相手を理解しようと努めてもそれでは成り立たないからである。それをうまく行うにはやはり人びとの意識が重要となってくる。そして意識や考え方というものは自分の育ってきた環境にも強く影響を受けると考えられている。その為、ニュージーランドの各地にあったマオリの偶像のように、受け入れようとする文化の一部だけでも、まずは普段の生活環境に取り入れていくということは、異文化交流を成功させるための最初の段階として効果的でないかと私は考える。そうすることですぐには言わずとも、何年何十年か後にはお互いがお互いを受け入れられる社会になっているのではないかと私は思う。

また、本調査と直接関係はないかもしれないが、私たちはもう少しだけでも時間に追われるのではなく、ゆっくりと時間を楽しむこととても大切なことではないかということを今回の渡航を通して学んだ。時間に追われ過ぎている



と心に余裕がなくなりやすい。それでは、見えるものも見えてこないのではないかと思う。心に余裕ができてくると、人は少しでも寛容になれるのではないだろうか。そしてそれは他者を受け入れやすくなるのではないかと思う。

■ 今回の経験をどのように今後生かしていくか

これから先間違いなく自分が過ごしてきた環境とは全く別の環境で育ってきた人と共に仕事をしたりする機会もある。その時に、今回の経験を活かして自分の中に余裕を持ち、まずは自分から相手の考え方等を理解していけるようにしていきたい。

■ 今後本プログラムを希望する学生へのアドバイス

今回の旅から得た経験で私ができるアドバイスは事前準備は入念に入念を重ねる必要があるということと、体調管理は渡航のできるだけ前から行うことが大事だということである。体調を崩してしまうと自分のやりたいことが思うようにできなくなってしまうので、そこはしっかりと注意する必要があると思う。

■ 主な奨学金の使途

*渡航費

*宿泊費

*現地調査費

*現地交通費 など